



ジョン万英語と学校英語

センター長 永國 淳哉



ジョン万次郎は、どんな風にして英語をものにしたのであろう。五人の漁師仲間と一緒に漂流した。14歳の少年は10年間で英語の読み書きまで取得。鎖国日本に帰国して、その開国の舞台裏で活躍した。

昨年夏に開催された第1回早期英語教育研究会で、那須先生よりイマージョン方式が紹介された。

カナダのフランス語地区小学校などのバイリンガル教育で取組みがはじまり、世界中にひろがりつつあるという。

シンガポールの経済発展に押されがちなマレーシアでは、小学校の偶数学年の国語、社会の他は全て英語で授業を実施。その成功が、韓国、中国などのアジアの国々からヨーロッパにも飛び火している。

日本でも、ようやく識者の研究がはじまり、いくつかの市町村での取組みがはじまっている。

イマージョン (Immersion) とは、“没入すること”。全てを英語環境として、実施するバイリンガル教育である。ジョン万次郎はイマージョン方式で英語力を身に付けたことになる。

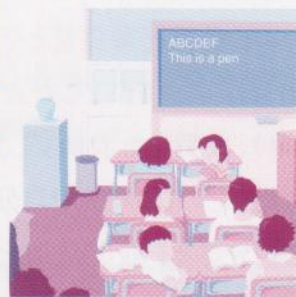
小学校で英語教育がはじまった。日本語環境の中で、

文部科学省は「英語が使える日本人」戦略構想を打ち立てて実施しようとしている。それは可能なのだろうか。

こと英会話となると、受験勉強を真面目にした人ほど喋らない。「喋れるかもしれない」が、喋らない。文法的ミスや文法をすることをおそれて「本能的萎縮症」となり、頭の中で「英作」をはじめてしまう。そして完璧な文章ができないと、口を開かないということになる。

私は「読み書き」ならできるというが、「それは嘘だ」とNHK英会話でお馴染みだった松本亨先生はいっていた。礼状が英語で書けないし、英字新聞が読めないからである。松本亨先生によれば、英会話に必要なリスニング60点、スピーキング40点で得意と思っている、リーディングは20点、ライティングは10点以下だろうという。

では、高知で英語環境をどこまでつくることができるのだろうか。高知大学の那須恒夫教授(教育学部)を座長として、「イマージョン方式」の可能性をさぐる第2回早期英語教育研究会が、平成17年2月24日に開催される。(4ページ参照)多数の方々の参加をお待ちしています。



「第32回 こども英語弁論大会」参加者募集

こども英語弁論大会は、「高知県下の子ども達に国際人としての感覚を身につけ、将来国際社会で活躍できる人間に育てる」という主旨で行なわれます。

こども英語弁論大会では、幼児対象の高知県知事杯、小学校低学年対象の高知ロータリークラブ会長杯、小学校高学年対象の高知市長杯、自由弁論の最優秀賞のジョン万杯、課題弁論の最優秀賞の龍馬杯および幼児と小学校低学年および高学年の合同の熱演賞が各優勝者に贈られます。



日時：平成17年3月27日(日)午後1時
(参加者多数の場合時間変更があり、幼児の部を午前10時30分開会とします)

会場：高知県教育センター分館 南棟1階
大講義室(高知市大原町132番地)

参加資格：3歳以上、小学6年生まで。(高知県在住の児童)

申込締切り：3月11日(金)

申込先：〒780-8031 高知市大原町132番
教育センター分館 南棟2階
NPO高知県生涯学習支援センター
こども英語弁論大会係

参加費：3,000円(児童は上履きを持参ください)

問い合わせ：NPO高知県生涯学習支援センター

こども英語弁論大会担当 秋澤

TEL088-833-0022/FAX088-833-0023

主催：NPO 高知県生涯学習支援センター

後援：高知県、高知市、高知県教育委員会、高知新聞社、読売新聞高知支局、朝日新聞高知支局、毎日新聞高知支局、NHK高知放送局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知ロータリークラブ

生涯学習アニメーター1月例会に参加しました



高知県心の教育センター指導主事 徳永智恵子先生

途中より心の教育センターの友村所長らも加わり13名になりました。

自己紹介から始まりましたが、徳永主事の自己紹介はクイズ方式で、参加者全員が楽しみながら、徳永主事を知ることができました。私も自分を知ってもらいたい時にやってみようと思いました。

また、友村所長は自己紹介の中で、今冬に実施した「不登校児童生徒とその家族とのスキー教室」での出来事を話されました。一人の児童が2日間で自信をつけ、成長した事柄でした。スキーというこれまで経験したことのないことを自分の力でやり遂げたということ自分で自分自身を取り戻したということでしょうか…。次回はぜひ私も参加し、そのような素晴らしい出来事を実感出来るといいなあ…。

参加者からの相談事例の報告は4例で、参加者全員で意見交換をしながら、徳永主事の助言を受けました。最後に徳永主事が「不登校の子どものうち、今の自分に満足している子はいないと思います。不安を持っていて、一番つらいのは本人と毎日、本人を見ている家族だと思います。しんどいという気持ちを受け止め、不安を受け止めて相談に乗ってあげて下さい」。また、「悩んでいる本人同様にお母さんたちもしんどい思いをしているのが現実です。特に、母親という立場上、子どもが問題を起こしたり、不登校になったりすると「どんな教育をしよらあ!」、「お前がもっとしっかり

しよったら…」、「お母さんのせいよえ!」などと責められたりするのですが、私はまずお母さんを支えてあげて欲しいと思います。お母さんの安定が子供たちの安定に繋がります。」と参加者に語りました。

不登校・ひきこもり・非行などさまざまなケースがありますが、地域のみinnで支えあい助けて行かなければなりません。相談できる場所などを知らない方が多いのが現実なので、そういう場所をもっと身近に感じてもらえるよう私たちは努力しなければなりません。

高知県には家庭教育サポーターという方々が(H16年度登録164名)おられ、地域の特徴や現状などを把握した地域に分かれて活動しています。そういった方々の助けを求めても良いのではないのでしょうか。

KOLECではお兄さん・お姉さんの役割を担当するメンタルフレンド(派遣相談員)の育成と派遣を行っています。困った時には、KOLECにも相談下さい。適切な場所、家庭教育サポーター、メンタルフレンドのご紹介をいたします。

2月の月例会も相談事例の持ち寄りです。皆さんの参加で会を盛り上げましょう。家庭教育サポートの方はもちろん、一般の方の参加も大歓迎です。(A)



「アニメーター、Animator」とは、1.生氣(活気)を与えるもの(人);活気づけるもの(人)2.(映画)漫画(製)作者、動画撮影のコマ割りを決める人という意味があります。

高知県生涯学習支援センターでは前者の意味を用いています。

高知県立希望が丘学園分校に行ってきました



「希望が丘学園分校」を皆さんご存知ですか。南国市岡豊の小高い山の中にあり、「岡豊苑」という全国では、知

る人ぞ知る有名な温泉

宿のすぐ近くに所在しています。自然に囲まれ癒される雰囲気のあるところですよ。

同園の敷地面積は約六万平方メートル。敷地内には児童、生徒が授業を受ける本館、体育館、運動場、テニスコート、プール、木工室や四つの寮などがありました。休遊地には果樹、野菜などが栽培されています。分校の正式名称は、南国市立北陵中学校、同岡豊小学校のそれぞれ希望が丘分校。1999年に中学校、2000年に小学校の分校が設置されました。学校教育の導入は、四国内で一番早かったようです。子供たちは寮で職員と共に集団生活を送りながら生活の乱れを直し社会復帰を目指しています。

「希望が丘学園」というと、私もそうでしたが、非行児童生徒の矯正施設で一般にいう、「手に負えない子」が来る所と思っている方が多く、「希望が丘」出身というだけで偏見を持たれているのではないのでしょうか。

見学して感じたのは、「この子達が手に負えん子らなが?」

というのが、正直な感想でした。授業風景もクラブ活動風景もどこの学校とかわりがないのです。いえ、一般の学校よりも良かったと感じました。児童生徒の表情や取り組む姿勢の良さ。正直びっくりしました。そして、偏見を持っていた事に反省させられました。

見学後、職員の方から園の生活やエピソードのお話を伺う時間がありましたが、その話を聞いても『偏見』という壁が高いようでした。15年度の卒業生の全員が進学しています。進学にあたり、「希望が丘学園」の名前は一切出ません。原籍校の卒業になります。卒業生が偏見を持たないようにするためです。

私たちは、人の外見や経歴、うわべだけでその人を判断してしまいがちです。決して人を外見などで判断せず、その人の人柄(心)でお付き合いしていくことが大事ではないのでしょうか。昔はやんちゃやでも、その経験があってこそ生かされることが人生にあるでしょう。その人のマイナスをプラスに変えていけるように手助けしていかなければいけないのではないのでしょうか。

これから先、「希望が丘学園」卒業と堂々と書けるような社会になればいいのにと思いました。(A)

家庭教育生涯学習情報

佐川町「子ども支援ネットワーク」第6回 虐待防止研修会
～連携の在り方と、対応の見直し・限界への挑戦～

日 時 2月19日(土) 午前9時40分～午後4時30分
受付9時～

会 場 佐川町立「桜座」
高知県高岡郡佐川町甲356-2
電話0889-22-1110

参加費 無料(定員200名)

講 演 「児童相談所の現状と課題、地域に求めるもの」
高知県中央児童相談所 業務課長 渡辺 誠
「地域ネットワークのなすべきこと」
あかつき法律事務所 弁護士
岩城正光(CAPNAあいち理事長)

パネルディスカッション

パネリスト 都築周子(中村市子ども支援ネットワークコーディネーター)
久米光恵(高知市主任児童委員)

藤原志津(児童家庭支援センターびやくれん相談員)

コーディネーター 永野英志(高知県中央西福祉事務所福祉企画班長)

助 言 者 岩城正光(弁護士)

渡辺 誠(中央児童業務課長)

問い合わせ 佐川町立「桜座」
高知県高岡郡佐川町甲356-2
TEL0889-22-1110

若者のフリーター・ニート現象からキャリア教育を考える

土佐の子供たちの健やかな育みを願って、地域が地域と共に語り合う。

地元の教育学部が主催する公開討論会。

日 時 2月13日(日) 午後1時30分～4時

会 場 高知大学教育学部附属教育実践
総合センター・スキル実習室(高知大学曙キャンパス内)

指定討論者

くにみつ ゆかり(南の風社編集長)

細川しづ子(高知県小中学校PTA連合会理事)

堀田樹彦(南国市立大藤小学校長(県内初の民間人校長))

辻本康平(高知大学教育学部4年子ども学習支援ボランティア代表)

参加費 無料(先着60名)当日直接会場へお越しください。

問い合わせ 高知大学教育学部

教育実践総合センター長 田沼茂紀

電話:088-844-8394

(KOLECによる注) ニートとは、NEET(Not in Employment, Education or Training)で「無業者」と訳されています。なお、
<http://www.sodateage.net/mainpage/NEET/Top.htm>
<http://www.sodateage.net/mainpage/NEET/session.htm>
には、ニートという存在を日本社会に投げかけた小杉礼子氏(労働政策研究・研修機構副統括研究員)と工藤定次氏(NPO法人青少年自立援助センター理事長)の対談などの関連記事が出ています。

歴史ガイド「龍馬の足跡散策」

龍馬生誕170年記念参加行事として、桂浜公園内の坂本龍馬の足跡を案内します。

共催：浦戸城址保存会、龍馬研究会
日時：平成17年2月13日(日) 午前10時～12時30分
集合場所：桂浜 龍馬記念館前集合
参加費：1000円(龍馬記念館入場料を含む)

スケジュール

10:00～10:30 龍馬記念館「教科書を見る龍馬」展を見学
10:30～11:30 浦戸城址 案内(解説:堀内昭五郎)
11:30～12:30 桂浜公園内の龍馬記念碑と像ほか(解説:瀬戸鉄男)
(12:30:龍馬像前にて解散)

「高知発、21世紀の食を求めて」

(第2期、最終回)のお知らせ

「高知発、21世紀の食を求めて」(第2期)の最終回は2月18日(金)午後6時30分から1時間30分、「食用植物資源を世界に求めて」と題して牧野植物園長、小山鐵夫先生にご講演いただきます(聴講料は資料代を含めて1000円)。場所は万田(株)高知支店 高知市本町1-1-3 朝日生命ビル9階(堀詰電停北側「眼鏡の丸善」のあるビル)です。小山先生のご都合により日程が変更される場合があるかもしれませんので、前日にご確認をお願いいたします(電話 088-833-0022 または、ホームページ <http://www.kolec.jp>)。

なお、「高知発、21世紀の食を求めて」第3期(最終期)は5月中旬から開始する予定で準備を進めています。

2月生涯学習アニメーター月例会

「不登校・中退・進路などの相談会 みなさんで話し合おう」

不登校・中退者・進路などの相談を持ち寄り、みなさんと一緒に話し合います。どなたでもご参加出来ますので、ぜひお越しください。

日時：平成17年2月17日(木) 午後2時～3時30分
場所：高知市大原町132番地 教育センター分館 南棟2階 中講義室
(駐車場あり・「心の教育センター」と同敷地内。体育館北隣りの建物の2階)

参加費：無料
お申込：電話・ファックス・電子メールにて受け付けています。

※なお、2月月例会は都合により第3水曜日ではなく第3木曜日に変更となっていますので、ご注意ください。

第2回高知県早期英語研究会

高知大学の那須恒夫教授(教育学部英語科教育)を座長に第2回高知県早期英語研究会を2月24日に開催いたします。

今回は、イメージ方式について世界および日本国内の動きなど、およびイメージ方式を実際に取り入れている民間英会話教室の実践例について講演していただきます。

日時：平成17年2月24日(木) 午後1時～3時
講演：「イメージ・プログラムの成功と課題」
講師：那須恒夫(高知大学 教育学部 英語科教育 教授)
場所：高知市大原町132番地 教育センター分館 南棟2階 中講義室
(駐車場あり・「心の教育センター」と同敷地内。体育館北隣りの建物の2階)
参加費：500円(資料代として)

しばてん文庫「著者を囲む会」～久米生太子著 伝記「河田小龍物語ーねずみと絵描きー」(リーブル出版)～

この度、平成16年度の高知県出版文化賞に選ばれた「河田小龍ーねずみと絵描きー」の著者・久米生太子さん(72)に話をうかがいます。

久米さんの本職は薬剤師。長年、窪田善太郎先生のもとで童話を書いてきました。外国の童話にも興味をもち、英語やドイツ語を学び、アンデルセンの世界を探して海外旅行も活発にでかけています。

国際的な動きとともに、郷土史にも目を向け、龍馬研究会の理事としても活躍されていました。

この度の受賞作は、土佐の幕末史の副読本とも位置付けられるもの。作品づくりの苦労と楽しさをうかがいしたいと思います。

日時：平成17年3月12日(土) 午前10時より
場所：教育センター分館(高知市大原町132番地)
南棟2階 中講義室
(駐車場あり・「心の教育センター」と同敷地内。体育館北隣りの建物の2階)
参加費：無料(事前申込み不用)
主催：NPO 高知県生涯学習支援センター
高知市大原町132番地 電話:088-833-0022

ボランティア募集

KOLECメンタルフレンド

事業概要

登校拒否、不登校や引きこもりの子供たちのほとんどが対人関係を回避していることが文部科学省の調査研究でわかっています。メンタルフレンドとは、そうした子供たちの遊び相手、話し相手や相談相手となって子供たちのよい理解者になってあげられる大学生を中心とした青年ボランティアです。

ボランティアの活動内容

こどもの希望にしたがって決められます。メンタルフレンドとひとくちにいても役割はさまざまです。その上、かわり始めてから、子供の希望が変化してきて役割が変わってくる場合も予想されます。最初は楽しい遊び相手として関わっていて、親しくなると子供の悩みを聞く相手になるというケースもあると予想されます。メンタルフレンドとはこのような子供の要求に寄り添う形で変貌を遂げていく存在です。メンタルフレンドになる人に要求される人格はこだわりが少なく許容性が広いということになります。もちろん、社会性があることは必須条件です。

生涯学習ボランティア

事業概要

いつでも、誰でも、どこでも学べる社会を目指し、高知県の生涯学習を支援して21世紀の新たな生涯学習の展開をおこなっています。

ボランティアの活動内容

当センターにおいて、企画・運営の補助。
ホームページの修正やパンフレット作成から、企画考案・広報など全般に渡り、生涯学習の普及と支援の提案協力。



発行 2005年2月7日
NPO高知県生涯学習支援センター(KOLEC)
〒780-8031
高知市大原町132番地(教育センター分館内)
電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023
KOLEC 電話進路相談の電話 088-833-0086
電子メール info@kolec.jp
URL <http://www.kolec.jp>
発行人 理事長 山本晋平
編集 NPO KOLEC編集室/印刷 中島出版印刷

